

## オランダの農産品貿易構造の特徴とその要因

調査レポート

2017年2月9日 経済部  
アナリスト  
伊佐 紫

## ◆要旨

オランダの国土は約 415 万ヘクタールで九州とほぼ同じ大きさである。そのうち農用地は約 4 割（184 万ヘクタール）であり、オランダは日本の農用地面積（約 455 万ヘクタール）の半分以下の狭小な耕地で作物を生産している。このような条件にも関わらず、オランダは米国に次ぐ世界 2 位の農産品輸出国である。これには、①加工貿易・中継貿易が盛んであること、②花き、野菜、酪農品などの高収益な農産品を大量に生産、輸出する輸出志向型農業であることが理由である。これを可能にした要因は、①オランダ特有の立地条件の良さや EU 市場へのアクセスの良さ、②農業・食品加工業の発展、③効率的な農業生産体制の確立である。こうした条件の下、オランダは今後も農産品の輸出競争力を維持していこう。

## ◆オランダの農産品輸出

オランダの農産品輸出額は約 861 億ドル（2015 年）であり 10 兆円規模に上る。

主な輸出品は、花き（切り花、球根）（農産品輸出額に占めるシェア：11%）、牛肉などの加工品（同 10%）、酪農品・鶏卵等（同 9%）、葉茎菜類（同 8%）、飲料・アルコール類（同 6%）、調製飼料（同 6%）などである。

主な輸出先はドイツ、ベルギー、英国、フランスなどで、EU 向けが輸出額全体の約 8 割を占める。

## 主要農産品輸出国の農産品輸出額シェア（2015年）

順位	国名	金額 (億ドル)	シェア
1	米国	1,402	10.2%
2	オランダ	861	6.2%
3	ドイツ	794	5.7%
4	ブラジル	730	5.3%
5	中国	712	5.2%
6	フランス	648	4.7%
7	カナダ	474	3.4%
8	スペイン	469	3.4%
9	イタリア	417	3.0%
10	ベルギー	407	2.9%
46	日本	61	0.4%
-	その他	6,840	49.5%
	全世界	13,814	100.0%

(備考) HSコード02～25

(出所: UNComtradeより住友商事グローバルリサーチ作成)

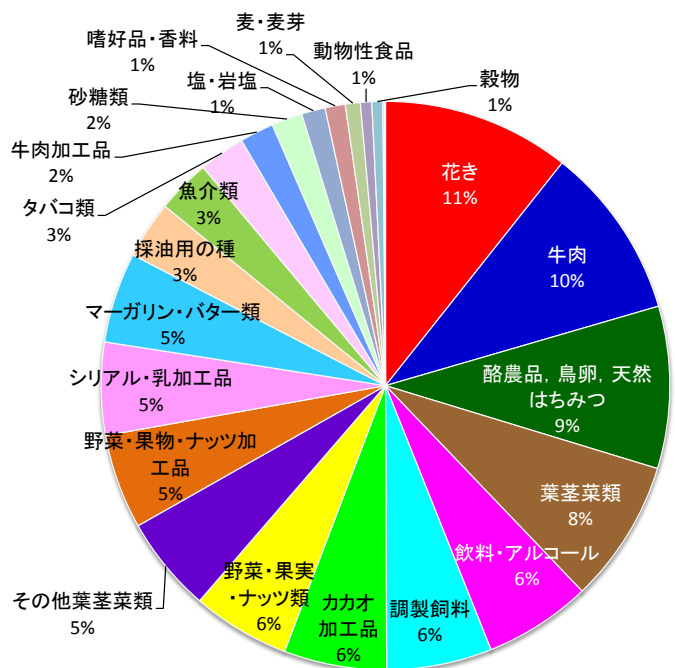
## オランダの主要輸出先（2015年）

順位	輸出先	金額 (億ドル)	シェア
1	ドイツ	219	25.4%
2	ベルギー	92	10.6%
3	英国	90	10.4%
4	フランス	74	8.6%
5	イタリア	33	3.9%
6	スペイン	23	2.7%
7	米国	22	2.6%
8	スウェーデン	20	2.3%
9	ポーランド	20	2.3%
10	中国	18	2.1%
-	EU	677	78.7%
	輸出総額	861	100.0%

(備考) HSコード02～25

(出所: UNComtradeより住友商事グローバルリサーチ作成)

## オランダの農産品輸出品目別のシェア（2015年）



(備考) HSコード02～25

(出所: UNComtradeより住友商事グローバルリサーチ作成)

◆オランダの農産品輸入

オランダの農産品輸入額は約 592 億ドル（2015 年）である。

主要な輸入品は、野菜・果実・ナッツ類（農産品輸入額に占めるシェア：9%）、マーガリン・バター類（同 8%）、カカオ豆（同 7%）、牛肉（同 7%）、採油用の種（同 7%）などである。

主な輸入先はドイツ、ベルギー、フランス、ブラジルなどである。

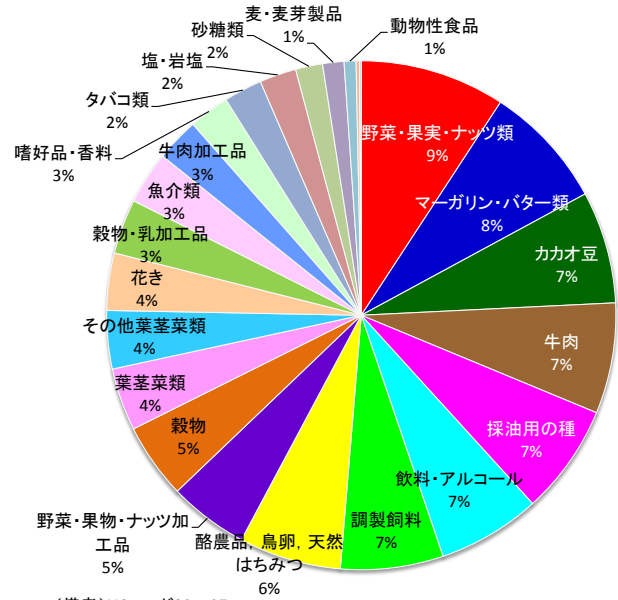
オランダの主要輸入先(2015年)

順位	輸入先	金額 (億ドル)	シェア
1	ドイツ	108	18.3%
2	ベルギー	80	13.5%
3	フランス	40	6.7%
4	ブラジル	34	5.8%
5	米国	23	4.0%
6	英国	23	4.0%
7	スペイン	21	3.5%
8	ポーランド	15	2.6%
9	イタリア	15	2.6%
10	コートジボアール	12	2.0%
-	EU	353	59.6%
-	輸入総額	592	100.0%

(備考) HSコード02~25

(出所: UNComtradeより住友商事グローバルリサーチ作成)

オランダの農産品輸入品目別のシェア(2015年)



(備考) HSコード02~25

(出所: UNComtradeより住友商事グローバルリサーチ作成)

◆中継貿易/加工貿易

オランダの農産品の純輸出額（輸出額から輸入額を差し引いた額）は約 269 億ドル（2015 年）である。農産品の純輸出額は農産品輸出額全体の 3 分の 1 程度にとどまり、残りの 3 分の 2 は輸入品を加工または中継し、他国に輸出している。

主要な加工輸出品にはタバコの葉を原料とするタバコやカカオ豆を原料とするココアバター、チョコレート製品などがある。チョコレート製品の場合、アグリビジネス企業がカカオ豆をインドネシアのプランテーション農園から輸入し、これを原料としてチョコレートに加工し輸出している。

また、輸入した農産品を加工せずに同種の財のまま輸出する中継貿易も盛んである。例えば、冬季の南欧野菜をドイツなどの EU 市場に輸出している。

以上のように、オランダの農産品輸出額が大きい理由は加工貿易や中継貿易が多いからであり、これほど加工貿易が盛んである背景には農業や食品加工業の発展が不可欠で、ひいては、オランダの農産品の輸出競争力の高さを示している。

オランダの農畜産物・食品等の輸出入額(2015年)

順位	輸入品目	金額 (億ドル)	順位	輸出品目	金額 (億ドル)
1	カカオ豆	21	1	花き	39
2	大豆	18	2	キノコ	37
3	パーム油(マーガリン原料)	17	3	チーズ	34
4	牛肉	16	4	調理済み食品	30
5	加工ぐず	16	5	飼料	28
6	果汁	14	6	麦芽・小麦製品	26
7	ワイン	13	7	鶏肉	25
8	調理済み食品	13	8	牛肉	23
9	チーズ	12	9	豚肉	19
10	小麦	12	10	ビール	19
11	チョコレート製品	11	11	葉茎菜類	19
12	飼料	11	12	トマト	18
13	コーヒー	11	13	チョコレート製品	18
14	トウモロコシ	11	14	練り菓子	17
15	練り菓子	10	15	医薬用カプセル、ライスペーパー	16
16	切り花・球根	10	16	ココアバター	16
17	調理済み食品(肉・魚介類)	10	17	調理済み野菜	15
18	柑橘類	9	18	ミネラルウォーター	14
19	豚肉	8	19	花・果実の種	14
20	キノコ	8	20	牛乳・クリーム(加糖)	14

(備考) HSコード02~25

→ 加工

← 未加工

(出所: UNComtradeより住友商事グローバルリサーチ作成)

本資料は、信頼できるとされる情報ソースから入手した情報・データに基づき作成していますが、当社はその正確性、完全性、信頼性等を保証するものではありません。本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社及び住友商事グループの統一した見解を示すものではありません。本資料のご利用により、直接的あるいは間接的な不利益・損害が発生したとしても、当社及び住友商事グループは一切責任を負いません。本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。

### ◆オランダの農産品生産

農産品のうち輸出額が最も多いのは花きであるが、その多くは国内で生産している。オランダの農産品生産額は約 185 億ユーロ（2013 年）である<sup>1</sup>。最も付加価値額が大きい部門はトマト、キュウリなどの果菜類やバラ、キク、フリージア等の切り花の施設園芸であり、全体の約 4 割を占める。次いで、高収量な牧草を生産する草地酪農、養豚、養鶏などの集約畜産などである。これらは国内需要を大きく上回って生産され、大量に輸出される。例えば、トマトの自給率は 310%、豚肉は 240%となっている<sup>2</sup>。一方、大豆など土地利用型の作物やカカオ豆など国内で生産できない加工原料は輸入に依存している。

こうした生産と貿易の構造から、オランダは施設園芸のような高収益な生産や酪農・畜産などの労働・資本集約的な生産に特化し、狭い農地で効率的に農産品を生産、輸出する輸出志向型であることがわかる。

一方、EU の最大農業国であるフランスは、原料を多く生産し輸出する一方、国外から食料品を多く輸入する原料輸出型である。近年では、原料のみならず食料品も生産・加工、輸出するようになってきている<sup>3</sup>。

### ◆農産品輸出が多い要因

オランダの加工貿易・中継貿易が発展した要因と輸出志向型農業が発展した主な要因を 3 つ挙げる。

#### ① 立地の優位性と EU 市場へのアクセスの良さ

オランダは欧州のほぼ中心に位置し、欧州最大の港ロッテルダム港、空のスキポール国際空港を有する。これらの拠点は古くからアジアと欧州との物流網、並びに、域内を結ぶ道路、鉄道、河川を利用した物流網の中心地として機能してきた。こうした立地の優位性のもと、オランダでは物流ネットワークが高度に発達し、加工・中継貿易の発展に大いに寄与している。

また、オランダは約 5.8 億人を有する巨大市場である EU に対して、関税や非関税障壁なく自由にアクセスできる。特に、オランダは域内の一大消費国であるドイツや北欧市場の近くに位置しており、農業ライバル国であるスペインや東欧諸国を凌ぐ輸出国となっている。

#### ② 農業・食品加工業の発展

オランダは 2011 年、農業・食品部門と施設園芸・種苗部門を国の重点育成産業と位置付け、政府支援の下、農業・食品のイノベーションへの取り組みを強化している。オランダ中東部ヘルダーランド州ワーヘニンゲン市に「フードバレー」と呼ばれる産業集積地がある。ここではワーヘニンゲン大学を中心とする研究センターや企業などの科学者が集結し、政府や農業協同組合と一体となってビジネスに直結する研究開発を行っている。具体的には、農産品の育種・種苗、生産、加工、流通、販売にわたるフードバリューチェーンの構築を進め、農業・食品加工業界の発展を牽引している。

#### ③ 効率的な農業生産体制の確立

オランダの農家は狭小な耕地で作物を効率的に生産している。農家は農作業の IT 化・機械化・標準化や外国人労働者の活用により生産コストを削減している。こうした農業経営の効率化により、大規模生産が可能となり輸出を伸ばしている。

また、オランダの農業者間にはお互いが競争相手であっても農業の知識や技術を共有し、相互に高めあうという特有の文化が浸透している。こうした生産者間の共同体制の構築は農業経営の効率化を促している。

### ◆見通し

以上、オランダの農産品貿易構造の特徴とその要因を見てきたが、オランダはその立地の優位性という強みを生かしながら、産官学一体となったイノベーションへの積極的な取り組み、さらには、効率的な農業生産体制の確立により農産品の輸出競争力を高めており、今後もその競争力の高さを維持していくと思われる。

以上

<sup>1</sup> 生きた動物を除く（Statistical Factsheet, Netherlands (April, 2016)）

<sup>2</sup> 一瀬裕一郎「オランダの農業と農産物貿易—強い輸出競争力の背景と日本への示唆—」 p.7 農林金融（2013 年 7 月）

<sup>3</sup> 経済産業省「平成 28 年度通商白書」 p263